

登録コード	UAA22500	開講年度	2026				
授業題目	哲学思想論実践演習				担当教員	篠原 成彦	
					副担当	早坂 俊廣・護山 真也・三谷 尚澄	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・6時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。		
(2)授業の概要	「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」と題された中教審答申は、「知識集約型社会」の到来を前に、2040年の中等・高等教育を担う未来人材が身につけておくべき「基盤のリテラシー」のあり方を提案している。この授業では、中教審答申の前提をなしているOECDによる「キー・コンピテンシー」の定義を出発点に採用しつつ、その発想を「哲学」という領域に固有の方法と融合させることを試みる。すなわち、現代社会を生きる「21世紀型市民」に必須の「基盤のリテラシー」のあり方を、「哲学を学習するもの」に固有の知的技術や思考の方法との連続性のもとに明確化し、そのことをもって日常的な「哲学」の学習を「現代社会の諸問題に適用可能な実践的知の技法」へと接続することがこの授業では試みられる。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：OECDによるキー・コンピテンシーの定義を理解する 第3回：「現代に生きる哲学的方法」としての「ソクラテスの対話」 第4回：情報リテラシーとしての「哲学的懐疑」 第5回：「レトリック」と「わかりやすい文章」の関係について 第6回：「分析哲学の明晰さ」は「伝わる文章」と何か関係があるのか？ 第7回：図書館はいまでも「知の殿堂」たりえているか 第8回：学問と政治（1）：京都学派と戦争協力 第9回：学問と政治（2）：ハイデガーとナチズム 第10回：「大衆の時代」と「批判的精神」 第11回：データ・サイエンスの時代に「教養市民層」は何ができるか 第12回：「専門書」のボキャブラリーをパラフレーズする技術 第13回：「翻訳文化の功罪」について 第14回：ネオ・プラグマティズムとフェイク・ニュースの時代 第15回：まとめと振り返り（ピア評価の実践） 定期試験：実施しない。						
(4)成績評価の方法	ピア評価のシステムを導入する。ピア評価シートを用いて、プログラム開始時から終了時までの活動参加度、発話回数、他者の発話に真摯に耳を傾け、理解しようとする態度などの成長度合いを定量的に測定する。また、最終レポートとして、「自分が成長したと思える理由」を、具体的なエピソードと共に記述してもらうことを通じて、学修成果の確実な測定を実現する。 得点率による評価基準 90%以上 秀、89 - 80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。						
(6)事前事後学習の内容	自分の担当箇所について事前に入念に準備し、演習の結果を受けて事後に修正を加えることは、最低限行ってください。そのうえで、担当箇所以外についても、教科書・参考書を熟読玩味することが必要です。						
(7)履修上の注意	大学院生としての自覚をもって履修してください。						
(8)質問、相談への対応	以下のアドレスにメールを送ってください。 nmitani@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	リチャード・ローティ『プラグマティズムの帰結』、ちくま学芸文庫、2014年 鈴木哲也、高瀬桃子『学術書を書く』、京都大学学術出版会、2015年						
【参考書】	中嶋嶺雄『学歴革命：国際教養大学の挑戦』、KKベストセラーズ、2012年 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター（編）『ディープ・アクティブラーニング：大学授業を深化させるために』、2015年						